

日本獣医師会 創立70周年にあたって



公益社団法人日本獣医師会

会長 藏内 勇夫

公益社団法人日本獣医師会は、本年で創立70周年を迎えました。これまで、ご指導、ご支援を賜ってまいりました関係各位に、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

本会は、昭和23年に社団法人日本獣醫協會として設立され、昭和26年に社団法人日本獣医師会に改称されました。本会は設立以来、47都道府県及び政令市の地方獣医師会（現在55地方会）を会員として、小動物及び産業動物の診療獣医師をはじめ、家畜衛生及び公衆衛生並びに動物福祉及び野生動物の管理を担当する公務員獣医師等幅広い分野に就業する獣医師とともに公益活動に従事してまいりました。

本会設立の時期は、国民の食糧確保が第一とされ、我々獣医師の職責も畜産物をはじめとする食料の増産が最も重要とされた時代でありました。その後、我が国経済は高度成長を遂げ、獣医師には産業動物診療を通じての畜産の振興、食の安全と安心の確保のほか、家庭動物に対する高度で多様な獣医療の提供、人と動物の共通感染症の予防、動物の愛護と管理、野生動物の保護・管理等多様な社会の要請に応えながら、国民生活の向上に貢献していくことが期待されています。

最近の本会の活動においては、①“One Health”の推進、②感染症と薬剤耐性対策、③人と動物の共通感染症への対応、④動物愛護とマイクロチップの普及、⑤大規模災害への対応、⑥獣医師の役割についての社会への普及・啓発、⑦獣医学教育の改善・充実、⑧女性獣医師の就業支援等を重要な課題として対応しており、この記念誌ではその活動の一端をご紹介させていただきました。

“One Health”の推進につきましては、一昨年福岡県で開催した第2回世界獣医師会-世界医師会“One Health”に関する国際会議の成功の後、同会議で採択・公表された「福岡宣言」を踏まえ、日本医師会との連携を一層強化しながら、関係省庁のご理解とご支援も得て、連携シンポジウムの開催等、関係者間の情報共有に努めています。

また、最近、地震や津波、豪雨による洪水等、各地で災害が頻発しています。我々は阪神・淡路大震災、東日本大震災等を経て、大規模災害における被災動物救護活動を経験してきました。この間、構成獣医師の方々は、厳しい状況の中で「傷ついた動物のため」、「動物を支えている被災者の方々のため」に立ち上がり、多くの国民の皆様方の支援を得て救護・復旧活動を実施してこられました。このような災害は、今後我が国のどの地域でも発生すると思われる、本会としても、更に十分な支援体制の構築が必要であると考えています。

この意義ある創立70周年を節目とし、日本獣医師会は、獣医師が一層国民生活の向上に貢献し、人と動物が共生する豊かな社会の発展を目指して活躍することができる環境の整備に尽力してまいります。

皆様方におかれましては、今後とも日本獣医師会の活動に対しご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。